

商店街名：刈谷市刈谷駅前商店街振興組合【刈谷市、平成 28 年度指定】

1 活性化モデル商店街の概要

●キャッチフレーズ

みんなでまち興し！！ ～地域と取り組む「安心・安全・おしゃれ」なまちづくり～

◎商店街の将来ビジョン

【現状】

トヨタ系企業の誘致により近代産業都市としての足がかりを得るとともに、刈谷駅周辺の商業地は企業社員の消費需要に支えられ、活気を呈してきた。

【課題】

中心市街地としての成熟度では未完な部分が見てとれる。それらは、まちの景観やにぎわいの健全性、ホスピタリティ、ブランド性など、まちの「質」的な転換・向上を必要とする。

【対策】

質的転換・向上を図る施策として、主な内容は以下の通りである。

- ・まち並み景観の向上（おしゃれなまち）
- ・健全なにぎわいづくり（安心・安全）
- ・ホスピタリティの向上（おもてなしの心）
- ・ブランド性の向上（グルメに特化、歴史のまち）
- ・まちづくり推進体制の強化

◎具体的に取組む事業内容

○まちづくり構想 2020 実施事業（28 年度～32 年度）

「まちづくり構想 2020」に基づく事業の実施、2021 年以降の街づくりの方向性の検討等

○おもてなし商店街推進事業（28 年度）

シェイクハンドステッカー掲示店のマップを作成する。

○情報誌「あくあ」発行事業（28 年度～32 年度）

○産・学・官連携強化事業（28 年度～32 年度）

愛知教育大学や、他大学と連携し、学生によるイベントの開催等

○コミュニティ醸成事業（28 年度～32 年度）

テーマを持ったカリアンゼミの実施等

○刈谷駅北口広場花と緑の創出事業（29 年度～32 年度）

地域と連携し、店舗前、住宅前に花を飾るおもてなし事業の実施等

○カリアンナイト 20 回記念事業（30 年度、32 年度）

○刈谷駅周辺連絡協議会との連携事業（32 年度）

2 活性化モデル商店街の実績・成果等

◎商店街の将来ビジョンの実績

○健全なにぎわいづくり（安心・安全）

飲食店の増加と共に風俗店が増加し、路上の客引きが見られるなかで、風俗店同士の自主規制を求めた。

○ホスピタリティの向上（おもてなしの心）

飲食店は、小規模な店舗が多く、バリアフリー化が困難な店舗も多い。そこで、物理的にはバリアがあったとしても、店側のちょっとした手伝いで気持ちよく店舗を利用してもらえるような「おもてなし」店舗となるための啓発活動（シェイクハンドステッカーの掲示等）を行った。

○ブランド性の向上（グルメに特化、歴史のまち）

本地区は、刈谷駅徒歩圏内に百数十の居酒屋系店舗が密集している。業種的性格から、幹線道路沿いだけでなく、路地内にも個性的な店舗が連なっており、「界索性」がまちの個性となっている。近い将来、幹線道路の整備が予定されているが、その整備に合わせて路地の舗装整備を提案した。

○まちづくり推進体制の強化

本地区には、当商店街に交差する形で、刈谷市桜町通り商店街振興組合が立地しており、近年はイベントにおいて連携する機会も多くなっている。刈谷駅周辺地区における一層の活性化のため、一部事業において協働して実施する体制構築を目指す他、まちづくり会社活用による両商店街の協調化を進めた。

◎事業実績

○まちづくり構想 2020 実施事業（H28 年度～R2 年度）

歴史関連事業は於大帰城行列から於大の方茶会など、毎年内容を若干変えて開催し、商店街地域のブランド向上を目指すとともに「刈谷道」を活かした地域商業活性化を図ってきた。地区と連携したハロウィン事業は毎年継続して行い、さらにスペース Aqua を使って異なる世代を集めた世代間食堂事業を行うことで地域コミュニティ醸成の一端を担ってきた。また隣接する桜町通り商店街と連携しながら、商店街マップ制作事業も行った。

○おもてなし商店街推進事業（H28 年度）

障害者の方が利用しやすいお店が一目でわかる「シェイクハンドマーク」を示したステッカーを作成して店舗の入口等に掲示した。活動に賛同、協力しマークを掲示した店舗数は 24 店舗であった。多くは飲食店であるが、物販で参加したお店もあり、業種の分け隔てなくこの活動が広がっていく契機とすることができた。また、シェイクハンドマーク掲示店舗を示したマップも作成した。来街者にとって、誰もが利用しやすい商店街づくりを推進することができた。

○情報誌「あくあ」発行事業（H28 年度～R2 年度）

基本的には年 4 回の発行を行った。当初は商店街のイベント情報や周辺の情報など、情報誌としての紙面作りに留意した。しかし新型コロナウイルス感染症の拡大という社会現象が商店街にも影響を及ぼし、その状況に対処する各個店の取り組みを紹介するなど、単なる報告と PR だけでなく、中心市街地の活性化を担う商店街の声が出来るだけわかるような紙面作りも試みた。配布先は周辺の地区に各戸配布するだけでなく、紙面に掲載した企業での配布などにも努めた。

○産・学・官連携強化事業（H28年度～R2年度）

当初は愛知教育大学美術科の学生が作った作品を展示する内容から始まり、それに加えてスペース Aqua プロジェクトにおいて学生グループが講習を開始して、夏休み中の児童に学習とレクリエーションの場所を提供することができた。新型コロナウイルス感染症の影響で実際の講習が行えなくなったため、その模様を YouTube で配信する動画配信事業も始めてから、今年はそれを利用したイベント動画の公開も行っていくなど年々バージョンアップしている。

○コミュニティ醸成事業（H28年度～R2年度）

商店街のコミュニティスペースを積極的に活用するため、スペース Aqua プロジェクトやそれと一体となったカリアンゼミを開催するなどして、参加する地域住民と商店街加盟者との交流を図った。また講師として参加した方々ともつながりを保つことで、情報誌あくあの表紙イラストを依頼したりするなど、様々な交流を生む結果となった。カリアンアサイチは商店街事業としては最も早い時期から行われており、これも参加者にとってコミュニケーションの場としても定着している。

◎事業の効果

カリアンアサイチの来場者数平均が目標の 100 人/回あたりを上回る 126 人/回になった。

◎新型コロナウイルス感染症を踏まえて取組んだこと

当商店街では新型コロナ対策の新たな試みとして「刈谷飯クルー」を始めた。デリバリーサービスとして、継続され、7月で発足から1周年を迎える。

コロナ禍で沿道ビアガーデンというイベントも行った。来場者はスマホで発注し、係員が配達する形にしたことで、飲み歩きをしないバルイベントとして開催した。刈谷飯クルーのような、デリバリーサービスに商機を見いだせた店もある。

◎その他の成果

中心市街地活性化の一翼を担う商店街の姿が浸透したことにより、例えば株式会社アイシンと連携したデリバリー事業である刈谷飯クルーへの協力(GoTo 商店街事業としても申請し実施)や、同じく株式会社アイシン課長会の福利厚生に協力した AI チケット事業の実施といった、周辺の大企業との連携も行えるようになった。



(カリアン朝市)